

# 木炭ができるまで

木炭には、大きく分けて「白炭」と「黒炭」の2種類があります。それぞれ原木とする木の種類や、炭窯の構造、炭のやき方などが違います。

## 白炭

【主な産地】和歌山県（備長炭）、高知県（土佐備長）、宮崎県（日向備長）



### 原木

原木にはカシなどの堅い木が使われます (写真はウバメガシ)



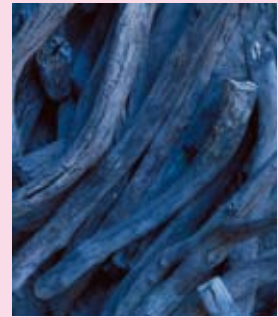
### 炭窯

白炭窯と呼ばれる開口部の大きい炭やき窯です



### やき方

火のついたまま外に出し、消し粉という粉で消します

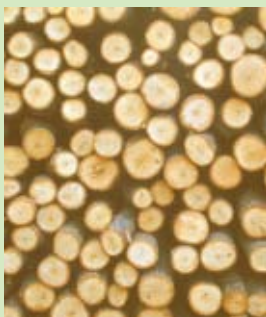


### 特徴

非常に硬く火もちがよく、叩くと金属音がします

## 黒炭

【主な産地】岩手県（ナラ炭）、北海道（カラマツ炭）、福島県（クヌギ炭）



### 原木

クヌギやナラなど主に広葉樹が使われます (写真はクヌギ)



### 炭窯

開口部が比較的小さく、地方により形が異なります



### やき方

焚口などを密閉して、完全に火が消えてから出します



### 特徴

表面に樹皮が残っていて、火が付きやすい木炭です

【写真提供】三宅 岳（カメラマン）

資料提供 社団法人全国燃料協会